

「今が最高にいいとき」

土曜日のひろば

《257》



中居 タツさん (75歳・太田名部)

★：学校を出ですぐ東京にある飛行機の部品を作る会社に挺身隊で行きます。たつさんも★：正月をすに普代さ戻って来てからは東京さいぐごどもなく家の手伝いをすすたあ。★：結婚したのは終戦後の昭和二十一年、そのころの浜は、なにもかにもよくて春はシラス、秋はスルメ。★：ほんでも、家までしょって運ぶのになんぼう苦労すたんだが。★：寝る暇もないような状態でござんすた。★：ほんでも、六人の子どもらは、おしゅうとさんがちゃんと、みでけすたつたすかいに安心すて稼いだがんすう。★：若いときは、自分の時間がぜんぜんなかつたども、今は好きならだけ畑んどうがでぎで野菜作りも楽すいす。★：ほんだすかいに、今が最高にいいとき(笑)。

「普代の植物散歩」⑬

アカマツ (まつ科) 下

大森 竹之助さん (七二)

久慈市在住

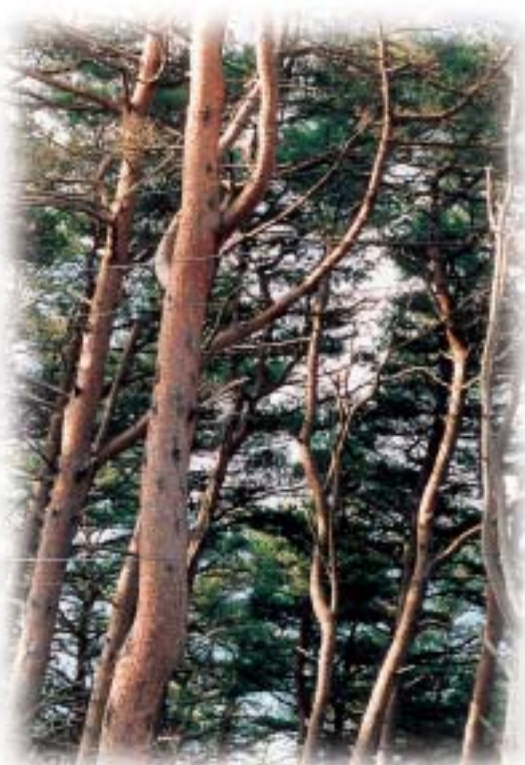


山林は鉄山用の木炭・塩木として全て伐採してしまつたわけではなく、留山と称して自由に伐採することを禁止し保護していた山があつた、もちろん藩有林である。

留山には大きな松など立派な木があつたから、村人は必要に応じて払い下げの申請をし、許可を得て伐採し利用し

ていた。ただ非常に厳しい制限をしき、一般の家屋用材には普通雑木を使用していた。この地方では、「南部赤松」と呼んで有名なものは、多くの美林を形成し用材としての価値が高かつたからである。

マツの名の由来は、



人の行く末を久しくタモツの転化、葉が落ちるのをマツで次の葉がでるからとか、神をマツとかたたくさんの

説がある。

アカマツは薪炭用として、建築材として、樹脂は民間ではヒビなどの治療に使用され、根は松明として

普代村・まついそ周辺 (写真：大森さん提供)

われ、根は松明として神社・寺院・民間で利用されてきた。また魚は暗いところを好むため魚付林にマツが植えられる。普代浜のアカマツは防潮林として潮風を和らげ、適度な空間は実に健康的で人々の憩いの場として役目を果たしている。

(2シリーズ・終わり)



文芸の世界

川柳愛好会 一月例会作品

ない知恵をどうにか出してのり越える
いい喉でいつもみんなを魅了する
遠くからイラクの平和祈るだけ
三上 翠香

人許すことを教えた花も散り
うそほんと指切りをして決着し
ためらいの迷いが夢を遠くする
深渡 汀女

あの痛み喉もと越えて八十修羅場
日の出に哀愁つる八十路かな
澄みきつた心の的に嘘はない
太長根英子

念押しした君の目の色怖かった
散華などないことを祈るイラク派遣
人生の答えは黄泉の国で出る
加差野静浪

出る穴を間違ひ土竜叩かれる
散ること意義とは言つてほしくない
目的の的も絞れぬままに雨